

CASBEE-広島 2014年版
(仮称)広島二葉の里プロジェクト

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-広島 2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境			0.38					3.3
1 音環境		3.4	0.15	3.6	1.00			3.5
1.1 騒音	物販50dB以下,事務所45dB以下,ホテル用宿泊部30dB以下	3.8	0.40	5.0	0.40			
1.2 遮音		4.4	0.40	3.6	0.40			
1 開口部遮音性能	開口部遮音性能T-2	5.0	0.71	5.0	0.30			
2 界壁遮音性能		3.0	0.29	3.0	0.30			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		3.1	0.35	2.6	1.00			3.0
2.1 室温制御		3.4	0.50	3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38	3.0	0.57			
2 外皮性能		3.0	0.24	3.0	0.43			
3 ゾーン別制御性	冷暖同時採用	4.3	0.37	-	-			
2.2 湿度制御		2.3	0.20	1.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	0.30			
3 光・視環境		3.4	0.25	3.3	1.00			3.4
3.1 昼光利用		4.0	0.32	4.2	0.30			
1 昼光率	高い昼光率を確保	5.0	0.55	5.0	0.60			
2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3 昼光利用設備		3.0	0.45	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.27	3.0	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00			
3.3 照度	主要な会議室500lx以上	3.7	0.14	3.0	0.15			
3.4 照明制御		3.0	0.27	3.0	0.25			
4 空気質環境		3.6	0.25	3.7	1.00			3.6
4.1 発生源対策		4.0	0.50	4.0	0.63			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆認定品又は、規制対象外のものとする	4.0	1.00	4.0	1.00			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.3	0.30	3.3	0.38			
1 換気量	建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍以上	4.0	0.38	4.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.25	3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.38	3.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.40	-	-			
2 喫煙の制御		3.0	0.60	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.3
1 機能性		3.1	0.40	3.4	1.00			3.1
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	3.0	0.60			
1 広さ・収納性		3.0	0.24	3.0	0.50			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.24	3.0	0.50			
3 バリアフリー計画		3.0	0.52	-	-			
1.2 心理性・快適性		3.6	0.30	4.0	0.40			
1 広さ感・景観	物販:天井高3.5m,事務所:天井高2.8m,ホテル宿泊部:天井高2.5m	4.0	0.27	4.0	0.50			
2 リフレッシュスペース		2.8	0.27	-	-			
3 内装計画	建物全体のコンセプトが有り、内観パースを作成している	4.0	0.46	4.0	0.50			
1.3 維持管理		2.8	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い内装材の採用	3.1	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		2.6	0.50	-	-			
3 衛生管理業務		-	-	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.3	0.30	-	-			3.3
2.1 耐震・免震		3.2	0.50	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能	制振オイルダンパー、座屈拘束ブレースを採用	4.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.20	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	物販:磁器質タイル20年,事務所:タイルカーペット20年,ホテル:タイルカーペット20	4.6	0.10	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクトにガルバリウムダクト採用	4.0	0.10	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種がB以上、Eは不使用	5.0	0.20	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-			

2.4 信頼性			3.6	0.20	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	発電機、電力貯蔵設備、受電設備の二重化、浸水の危険性がない	5.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	携帯電話網、引き込みの2ルート化、浸水の危険性がない	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.6	0.30	2.9	1.00	3.5
3.1 空間のゆとり			4.6	0.24	2.8	0.50	
1	階高のゆとり	工場：階高5.0m以上、物販：階高5.2m以上、事務所：階高4.2m以上	5.0	0.60	2.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	工場：0.12、物販：0.17、事務所：0.20、ホテル宿泊部：0.14	4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		工場用途：5400N/m ²	3.5	0.24	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.2	0.52	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	バックアップスペースの確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.32	-	-	3.5
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		景観チェックリスト、緑地図、付近状況写真、事前協議書等作成	5.0	0.40	-	-	5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			2.1	0.16	-	-	2.1
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI 非住宅 1.00 住宅(専有部) -	4.7	0.52	-	-	4.7
集合住宅以外の評価(3a.3b)		LED照明等の高効率設備機器の採用	4.7	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)			-	-	-	-	
4 効率的運用			3.0	0.21	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水型水栓に加え、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.0	0.60	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	鉄骨造-躯体と仕上材が容易に分別可能、OAフロアの採用	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用		防水工事のプライマー	4.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率=80%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	指導要綱に対応するよう協議を行っている	4.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	附置義務台数を満たす駐輪場、駐車場の確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリスト、広告物照明配慮事項の過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	